

# 地域の歴史文化に触れる活動と地域への愛着に関する研究

原木 梓 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード: 地域の歴史文化に触れる活動, 地域への愛着, 新居町

## 1. 序論

現在,日本では人口に占める高齢者人口の比率が高まり,高齢者1人あたりの生産年齢人口が減少している.各都道府県や市町村では,地域の歴史的資源を活用した地域の活性化<sup>2)</sup>を図る様々な取り組みが行われている.また,地元就職者の就職理由に「地域への愛着」が関係していることが明らかとされている<sup>1)</sup>ことから,地域の人々にも地域の歴史文化に触れてもらうことで,転出人数が減少し,人口増加につながるのではないかと考えた.そこで,本研究では,地域の歴史文化に触れる活動と地域への愛着要因との関連について明らかにすることを目的とする.

## 2. 研究方法

【被験者】静岡県湖西市新居町に在住する20代~40代の男女170名である.

【調査方法】鈴木・藤井ら<sup>3)</sup>の先行研究で用いられた1項目「地域への愛着」に加え,3項目「地域での生活満足」,「地域の人々に対する信頼」,「地域に関する認知」を加えた合計4項目による地域への愛着尺度を設定した.また,各質問に対する回答理由として「生活満足項目」,「地域愛着項目」は,湖西市人口ビジョン案<sup>2)</sup>を参考に14項目,「地域の人々に対する信頼」8項目,「地域に関する認知」9項目を筆者が独自に考え設定した.なお地域の歴史文化に触れる活動に関する調査は,筆者が独自に考えた調査用紙を用いた.

また,調査は静岡県道路交通法施行細則第11条に基づき,申請書類を湖西警察署交通課に提出した上で,新居町駅前歩道と新居文化公園前歩道で街頭アンケートを実施した.

## 3. 結果および考察

1)新居町出身で生活のきっかけが生まれつきと回答した114名のうち,地域への愛着があると回答したのは101名(91.0%),地域に関する認知があると回答したのは79名(71.2%)であ

り,地方出身者に比べて割合が高い傾向にあった.つまり,地域での生活年数が関係していると考える.(表1)

	地域への愛着		地域に関する認知	
	ある	ない	ある	ない
ある	91.0%	9.0%	71.2%	28.8%
合計	100%	100%	100%	100%

2)地域への愛着要因と地域の歴史文化に触れる活動には関係が見られた.地域への愛着があると回答した136名のうち131名(96.3%),地域での生活に満足していると回答した136名のうち103名(93.8%),地域の人々に対する信頼があると回答した153名のうち142名(92.8%)が地域の歴史文化に触れる活動を行っていた.また,これらには共通して地域での人間関係が関係しており,地域の歴史文化に触れる活動を通して,地域の人々との交流やつながりが期待できることが明らかとなった.(表2)

	地域への愛着	生活満足	人々に対する信頼
	ある	96.3%	93.8%
ない	3.7%	6.2%	7.2%
合計	100%	100%	100%

3)生活に満足するための「利便性」,災害や治安の心配をしない生活を送るための「安心性」,地域の人々との良好な関係を築くための「信頼性」や「交流」などの地域環境への評価に加えて,地域の歴史文化に触れる活動を行うことや,地域の風土に接することなどが地域へ愛着をもつ要因であった.

## 4. まとめ

地域の歴史文化に触れる活動を行うことで,地域への愛着,地域での生活満足,地域の人々に対する信頼が構築されることが明らかとなり,地域への愛着要因と地域の歴史文化に触れる活動に関係が見られたと考える.

引用・参考文献

- 1)江口貴康(2002):地域高校生地域愛着意識とUターン-島根の高校生調査から-,社会システム論集,7:55-70
- 2)湖西市人口ビジョン策(2016):第2章,人口傾向の分析,湖西市,企画部,企画政策課, [www.city.kosai.shiyouka.jp/](http://www.city.kosai.shiyouka.jp/)
- 3)鈴木春菜・藤井聡(2008):地域愛着への協力行動に及ぼす影響に関する研究,土木計画研究,論文集25(2),pp.357-362